

特集 ネオシルバー宣言！



「なんだか60歳って楽しそう」と思わせてくれた3人。なつかしい話を織り交ぜながらも、そこに立ち止まらないのがネオシルバー。



60代は新しい青春時代。
僕らシルバー1年生、
これからのことを話そうよ。

勝馬田泰子さん(左) 大森不二夫さん(中) 伊藤典子さん(右)

4年前、盛岡に帰郷し、盛岡が自分の居場所だと再確認。10年日記が2冊目に突入中。影響を受けた言葉は、先輩から言われた「子育ては何でも受け止めてあげること。『忙しいから』でほととぐのではなく、子どもの訴えはその場、その場で聞く」

学生時代から大の映画好き。いつも胸に咲く言葉は、亀井勝一郎の「邂逅(かいこう)の謝念」。「人は人生の中で出会い、喜んだり、悲しんだりしている。色々なことに直接出会っていくことが大切」と考えを巡らせている。今回の「ネオシルバー」は大森さんの造語。

元公立中学校の音楽教師。昨年度に定年を迎え、介護をしながら新たな環境で子どもたちに音楽を指導中。常にニュートラルなネオナチュラリスト(大森さん命名)。いつも胸に咲く言葉は「心から体当たりで向き合い、人、世の中に対しても、痛みを忘れない」

構成と写真・編集室
インタビュー・須田悠介

ネオシルバー宣言

- 一、今までのめがねをはずしてみよう。
- 一、喜怒哀楽をわすれずに、自分流の素でいきましよう。
- 一、これまでの人生で、やったことの無い何か挑戦を。
- 一、いろんなことが、あるけど、プレミアムエイジをエンジョイしよう。

さあ、行こう

60代は第三の青春時代

「ひと昔前までは、60歳はご隠居のイメージがありました。実際にその年齢になってみて？」

勝馬田 60歳は一区切り。「戻る」「帰る」といった点では、今までにないことをやりたいし、今までに見たことのないものを見たい……。わくわくしているところがあります。

大森 自分では60、70代は第三の青春と思っています。10代、20代のように元気にできなくても、絵だったり、音楽だったり、シルバードラッシュ何か色をつけて遊びたいですね。今は地域社会にデビューして、現役時代とは質の違った忙しさも感じています。

伊藤 体は不思議なもので、60歳と聞いたとたん、初めてインフルエンザにかかったり、体の節目はあるんだなと思いました。でも気持ちではやりたいことはいっぱいあって、どう整理していけばいいか……。一日、一日はあつという間に過ぎていきますね。

大森 今までは時間割が決まっていた、毎日が忙しかった。今は土日もなければ、時間があふすぎ

ちやうと基準がなくなっちゃっている。ある70歳いくつの人から、「何もしないとあつという間だよ」と言われて、やれることをやろうと思ひ直したんです。

日日は好日、
ネオシルバー宣言！

大森 昔から老人という言葉があつて、確かに老いる人ではあるんだけど、そこに待てよという形で口火を切ります。いわゆる一つの役割は終わったけれど、新しい現役というところに、それまでと違う考え方や暮らし方があるはず。例えば、100メートルを20秒、30秒で走ってもいい。スピードではなく、何かに挑戦し続けることに新しい老人像があるはず。逆に30秒で走って、光を浴びる楽しみをネオシルバーとして感じられたらハッピーになるのかなと思います。新幹線から各駅停車に乗り換えて、ゆっくり、ゆっくりと旅をしていく。ゆっくりした旅では今まで見えなかった風景が見えたり、自分が見えたり、プレミアがある。そういうものを皆さ

んで共有しながら、新しいシルバー像をつくっていくませんか？
というのがネオシルバー宣言で

「皆さんは、どうですか？」

勝馬田 60歳は怖くない、楽しんでいたいことを私たちが示していきましょう。まさにこれからという感じ。その中で遊び心のある、かわいいおばあちゃんになりたい。

伊藤 アルトリコーダーを自分のものにして、幼稚園とかで演奏会をしてみたいです。あとはできればマラソンをやってみたいな。

大森 2坪くらいの小さなブックカフェをやってみたいですね。たまに若い人と一緒にブックトークをしたり。それと「今月の動き」みたいなものをガリ版で刷って店に張り出して、感想を木のポストに入れてもらったり。

「皆さん、なんだか子どもみたくにはしゃいでませんか。僕は子どものころから大人に憧れていました。身近な大人は親父でしたが、大人ってなんかいいな、楽しそうだなと思わせてくれた。実際、僕が大人になって、今の世代の方たちが60歳を迎えています。子どもの時に思ってたように楽しそうだなって思わせてくれる。だから、ずっとわくわくさせてもらいたいです。

そして、

これから60歳を迎える方へ

勝馬田 子育てとか介護とか、孫のこととか仕事もあつて、皆さんそれぞれ色々ありますが、考え方を一つで楽しくできるんだということをお伝えしたいです。

伊藤 60歳は黙ってでもやってきます。私は今まで肩肘張らずに自分なりに1日、1日を過ごしてきたので、後悔はしていません。なので、普通でいいと思います。気が張らずにありのまま。

大森 60歳になつても人生は続いていく。今までしよつてきたものを外す練習だったり、地域社会デビューの練習だったりを少しずつ始めた方がいいかなと思います。



60歳の節目にそろえた愛用品は赤やピンクのカラーリングで賑やかでした。脱ちゃんちゃんこですね。

昭和 20 年代最後に生を受け、戦後のこれからという原始の時代を生き、家電三種の神器に触れ、目まぐるしく移りゆく時代を生きてきた……それが今の 60 歳の皆さんです。1つの節目を迎えましたが、生涯現役時代。「老人」という言葉が使われなくなってきた今、昭和 29 年組の対談が実現しました。そこで見てきたものは、「ネオシルバー」という新しい老人像でした。



1 布製のフィルターでじっくりと抽出していきます
2 “ブラジル No2 南ミナス州 パセイオ農園ブルボン種深煎り”と自家製ベーコンのチーズトースト

「リビングの延長で寛ぎながら、ゆったりと本を読んではしい」とソファ一席が中心のためです。普段はクラシックやジャズが流れています

「リビングの延長で寛ぎながら、ゆったりと本を読んではしい」とソファ一席が中心のためです。普段はクラシックやジャズが流れています

「盛岡に来て予想外なことがたくさんありました。その一つが喫茶店でコーヒーを飲む文化が根付いていることでした」。コーヒーの店「響」のマスター、熱田純生さん(60)はそう話します。

リンゴ畑と住宅地が共存するアンブ、店内奥にはタンノイとアルテックといった大きなスピーカーが鎮座し、オーディオマニアならではの空間が広がります。

追いかけています。自身で豆を選定し、生豆が持つ酸味や香りをころさないように自家焙煎。91、92度の低めの温度でじっくりと抽出し、「香り、酸味、甘み、苦みが重層的に感じられる味」を追求しています。



喫茶店で過ごす 大らかな時間

コーヒーの店「響」 熱田純生さん

文と写真・編集室



コーヒー店マスターとして第二の人生を歩み始めた熱田純生さん

コーヒーの店「響」
 午前 11 時～午後 8 時
 水、木曜定休
 ☎019-613-3191
 盛岡市東緑が丘 4-40
 ※えんじ色の建物です。犬連れの方もOKです。

これから、あのとき。60歳とは？

これから 60 歳になる人、あのとき 60 歳だった人。各世代の方に「60 歳とは？」と質問をしました。違う世代だからこそみえる節目の時。それは、素晴らしい物語の本編がはじまる時間。

age 90
～5 ページ～

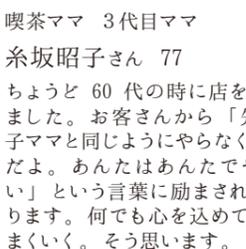
「あの日の足跡」でおなじみのあの方に寄稿いただきました。



age 40

photo plus 店長 川村公史さん 46

ある方から 60 代は若い頃の 30 代と同じ感覚だと教えられました。60 代で再びエンジンがかかってくると。この歳になって、これからの人に何を残せるか考えるようになりましたが、役に立つ知識や情報を与えられる 60 代になりたいですね。



age 70

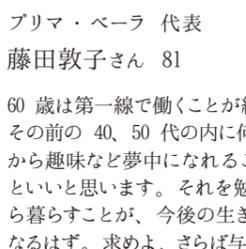
喫茶ママ 3代目ママ 糸坂昭子さん 77

ちょうど 60 代の時に店を引き継ぎました。お客さんから「先代の節子ママと同じようにやらないでいいんだよ。あんたはあんたでやればいい」という言葉に励まされて今があります。何でも心を込めてやればうまくいく。そう思います。



遊食屋 FUJI 代表 藤原和広さん 54

今の 60 歳は若い。その中で俺自身は今までお世話になった地域共同体に恩返しをしていきたい。と思っています。時間の使い方は少しスローにして、年代に合った走り方をしていきたい。あとは、ぜひ盛岡城の再建を実現させたいです。



プリマ・ベアラ 代表 藤田敦子さん 81

60 歳は第一線で働くことが終わる時。その前の 40、50 代の内に何でもいから趣味など夢中になれることを探すといいと思います。それを勉強しながら暮らすことが、今後の生きる基礎になるはず。求めよ、さらば与えられん。



age 80

5年目もずっと想っていく。やさしいカタチ

もう少しご紹介したいコト③

大船渡市・鎌田水産

～毎日の食卓に三陸めかぶ～

三陸ふわとろめかぶスープ 8食入り 1,080円



営業部 課長 山口優希さん

大船渡市

「岩手のわかめは有名ですが、西に行くと、根元のめかぶを知らないところが多い」

言い換えると、まだまだその美味しさを世に広められる可能性を秘めためかぶ。水産物ならではの“冷凍冷蔵”の壁をフリーズドライ製法で乗り越え、試行錯誤の末、めかぶの旨味が詰まったあっさり塩味のスープが完成しました。

養殖の復活を待って、2012年に発売開始。今は“第二のかもめの玉子”を目指しています。「三陸大船渡の水産物にはもっともっと美味しいものがたくさんあります。ここ大船渡に来てもらうきっかけになる商品作りにも力を入れていきたいです」と話す山口さんの目は輝いています。

お取り扱いは 特産品プラザ うら・いわて 盛岡店など

※価格は税込です。

※3月号の特集では伝えられなかったお話を少しご紹介いたします。



愛し岩手山をさがして

Text & Photo Suda Yusuke

寺山橋から眺めた岩手山。この下の4号線を北へ向かうと、ヘアレンピール工場あたりから岩手山から消える。岩手山の美しい稜線と手前の愛宕山の一部分が綺麗に重なるためだ。その後、上田三丁目の歩道橋で姿を見せる岩手山の大きさに僕はいつも驚かされる。